

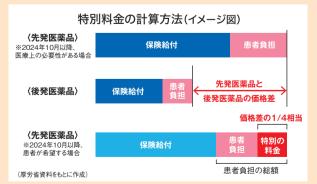
## 知っておきたい! 健保のコト

医薬品の自己負担の新たな仕組み

VOL.65

本紙7月号の当欄で紹介した「長期収載品の選定療養」 が10月から始まりました。これは医療上の必要性がない中、 あえて後発医薬品ではなく長期収載品(特許が切れた先発 医薬品)の使用を希望した場合、患者が特別料金を負担す る仕組みです。これはより後発医薬品を利用してもらい、患 者負担と保険給付の両方を軽減することが目的です。

そのため、例えば"使用感"や"味"など薬の有効性に関係 のない理由で長期収載品の使用を希望する場合に、長期 収載品と後発医薬品の価格差の4分の1相当を特別料金 として負担することになります(下図参照)。



ただし、流通の問題などにより、医療機関等に後発医薬品 の在庫がない場合は特別料金を支払う必要はありません。

厚生労働省「後発医薬品のある先発医薬品 (長期収載品)の選定療養について」はこちら



## 59回目を迎える「健康強調月間

Special issue

着目して紹介します。 事業を行っています。ここではそのうちの2つに で予告した「健康強調月間」が始まりました。同 ポスターは紹介しましたが、このほかにも多様な 月間の趣旨を踏まえた4つのアクションを促す 先月号の本紙「知っておきたい! 健保のコト」

よって多くの健康課題を抱え、加えて女性の社 ざまであると指摘しています。ライフステージに 共同参画白書」では、男性特有の病気は50代以 は2~5代の働く世代に多く、その種類もさま 降で多くなる傾向にある一方、女性特有の病気 会進出増加に伴い、職域で女性特有の健康課題 くりです。内閣府が6月に公表した「24年版男女 、対応することが求められています。 1つは女性のライフステージに応じた健康づ

連する目標を設定しました。これまで性差に着 目した取り組みが少なかったため、新規の項目と ~35年度)」で、新たに「女性の健康」を明記し、関 厚生労働省は「健康日本21(第三次、2024

てみま

いせんか。

して設定

これま るため、 を機に、ご自身の 保持、増進を図 心身 での日常 振り返っ 、同月間



から15%(32年度)まで向上させることが目標と 治体の乳がん検診、子宮頸がん検診に準ずる形 して、女性に多いといわれる骨粗しょう症の検診 定されました。 しょう症の検診受診率を現状の5・3% の向上が掲げられました。具体的には、自

で骨粗

受診率

・ジごとに罹りやすい病気や体の変化な つのロコモ・筋力低下予防については、 した状況を踏まえ今回は、女性のライフ を目的としてポスターを作成しました。 特有の健康課題の周知と、職場での理

月のすこやか特集(次頁)で取り上げました。 つの健康の

解促進 ど、女性

もう1

ステー

こう